

新図書館整備事業 第2回企画懇話会

基本構想の構成（案）	2 p
図書館の現状と課題	3 p
市民対話の実施状況（中間）	4 p
第1回 企画懇話会 主な意見から	5 p
図書館ミーティングでの主な意見	6 p
デジタル・対象別ヒアリング・アンケートから	7 p
意見交換テーマ1 居場所	8 p
意見交換テーマ2 学びとつながり	9 p
意見交換テーマ3 地域を知る 発信する	10 p

令和6年11月20日

基本構想の構成（案）

これまでの懇話会でのご意見や図書館ミーティングなどの市民対話で得られた意見を基に、基本理念などを示す基本構想を令和6年度に策定します。現時点の基本構想の構成と記載する内容について以下のとおり示します。

1	基本構想策定の趣旨と背景 ○図書館を取り巻く全国的な状況や背景をまとめます。
2	事業目的・必要性 ○現図書館の現状や課題を整理します。 ○市の関連計画での図書館の位置づけ、関係性を示し、新たに図書館を整備する目的と必要性について整理し、基本構想の位置づけを示します。
3	現状分析 ○現図書館の規模や蔵書・貸出などの状況を整理します。 ○県内他市との比較、類似団体との比較について整理します。
4	市民対話まとめ ○企画懇話会や図書館ミーティング、アンケート、デジタルプラットフォームなどでいただいた意見を整理します。
5	基本理念 ○キーワードを基に基本理念や基本方針を整理します。
6	基本的な機能 ○図書館に必要な基本的な機能に加え、本館と分館、郷土資料館のあり方や連携手法について整理します。

7	運営の種類 ○図書館の運営について、考えられる方法を整理します。
8	整備エリアの考え方 ○基本的な機能から導き出せるおおよその規模や、事業用地選定の考え方をまとめます。
9	事業推進のスケジュール ○現段階で開館までに必要なスケジュールを示します。
10	今後の課題 ○今後検討すべき課題について整理します。

現状分析

→参考資料1

県内主要8都市、東北13都市人口一人あたりの数値で比較

項目	鶴岡市	県内 8都市	東北 13都市
建物（床面積）	0.027㎡	7位	11位
蔵書数	3.33冊	7位	8位
受入れ冊数	0.074冊	7位	11位
貸出冊数	3.35冊	6位	11位
資料費	137.8円	7位	10位
来館回数	1.31回	7位	12位

県内：山形・米沢・酒田・新庄・村山・天童・東根・鶴岡

東北：花巻・北上・一関・奥州・石巻・名取・大崎・米沢
酒田・会津若松・白河・南相馬・鶴岡

これまで指摘されてきた図書館本館の現状

- 近年の多様なニーズに対応できていない
開架・閲覧・収蔵スペースなどが不足
- 建物の老朽化（築39年）
- 駐車場が足りない
- 目立つ場所がないので、利用者しか来館しない
市街地を訪れる人の回遊ルートにのっていない。

現状分析から見てくる問題と課題

- 建物が手狭で、市民が求める滞在空間が不足している
→滞在空間の拡充が必用
- 市民の多様な学習ニーズを支える図書や資料の提供が少ない
→図書や資料の充実が必用
- 市民が本や資料に出会う機会が少ない
→本や資料を手にとれるよう、開架スペースの拡充などが必用
- 本や資料を通じた利用者の交流が少ない
→新たな出あいや交流を創出する必要がある

企画懇話会、図書館ミーティング等、市民対話の実施状況（中間）



- ①7/31 第1回図書館ミーティング
- ②10/19 榊引分館ミーティング
- ③10/6 第3回図書館ミーティング
- ④⑤ 8/10 図書館ナイトツアー
- ⑤6/21 移住者交流会 図書館ツアー

期日	事業名	参加・回答者数
6/21	移住者交流会ヒアリング	14
7/4	つるおか未来カフェ（致道館高校）	24
7/7	温海分館ミーティング	9
7/20	子ども読書を支える会 記述式アンケート	17
7/22	第1回懇話会	13
7/31	第1回図書館ミーティング 「あなたにとって良い図書館とは」	30
7/31～8/8	こども会議	8
8/10・8/21	図書館ナイトツアー 「こんな図書館あったらいいな」	173
9/14	藤島分館ミーティング	12
9/21	羽黒分館ミーティング	3
9/24	学校司書研修会記述式アンケート	21

期日	事業名	参加・回答数
9/23	デジタルプラットフォーム（DPF）開設※1	35
9/26	第2回図書館ミーティング 「図書館で何をしたいか」	22
10/6	第3回図書館ミーティング 「郷土資料の活用」	18
10/17～11/11	WEB市民アンケート	2,170
	WEB小学生と保護者へのアンケート※2	1,373
10/19	榊引分館ミーティング	9
11/9	朝日分館ミーティング	5
11/19	中央高校ミーティング	
11/20	第2回懇話会	
総計(11月11日現在)		3,956

※1 DPFへの参加者は35人、投稿数は29件。

※2 小学生向けと保護者向けの設問を設定している。

第1回 企画懇話会から

1. 事例提供

(1) アドバイザー 山崎博樹氏

(NPO知的資源イニシアティブ代表理事 元秋田県立図書館副館長)

①図書館法第3条で求められる役割

- ・資料の収集、提供。 ・図書データの作成
- ・相談サービス ・他図書館との連携と協力 ・全域サービス
- ・読書会、セミナー等の開催 ・時事情報の提供
- ・学習機会の提供 ・学校、博物館、公民館等との連携

②図書館の三つの資産（アセット）

- ・建物（システム、周辺環境、アクセスも含む）
 - ・資料（図書、刊行物、デジタルデータ、郷土資料…）
 - ・人（図書館員、住民、関係職員）
- ※三つの資産は掛け算で効果を発揮する。

③近年の公立図書館の傾向

- ・すべての世代が利用できる環境を提供（勤め人…）
- ・住民の課題解決サポート（ビジネス・健康・生活全般）
- ・地域の営み、文化を収集・保存し伝える
- ・他機関及び学校教育との共同・連携
- ・住民と協創し、住民同士のつながりを促進
- ・様々な住民の居場所として機能
- ・複合施設化による利便性向上（教育施設から商業施設）

④他自治体の整備事例



岩手県 紫波町 紫波町図書館

「知りたい」「学びたい」「遊びたい」を支援する図書館。農業支援に力を入れて住民の課題解決を支援。写真は農業支援コーナー

(2) 教育長 布川 敦

ニューヨーク公共図書館 事例報告

充実した資料と閲覧室は多くの人の学びを支えてきた。仕事をしながら図書館で学び大成し、全財産を寄付した男性を記念した銘板には「他の人にも同じ機会が与えられますように」と刻まれている。



2. 意見交換 懇話会委員からの主な意見

居場所

- ・図書館は大人にも子どもにも居場所になってほしい。
- ・全世代のサードプレイスに。
- ・たくさんの思い出をつくって懐かしく思い出せる場所に。
- ・旅行者も立ち寄れる場所になってほしい。

学びとつながり

- ・図書館には情報や人材が集まる。使う人を育てる、みんなで作り上げる図書館にしてほしい。
- ・本館と分館、教育機関、地域とのつながりを深めたい。
- ・教育の多様性を支援する図書館になってほしい。
- ・読まない人にも本や人にであうしかけをつくってほしい。

地域を知る・発信する

- ・地域ごとの特色や行事などを図書館で知ることができると、自分の住んでいる地元の良さに気づける。
- ・鶴岡を発見して発信する場になってほしい。
- ・郷土資料館は図書館と密接した鶴岡の学びの基本。そこを大事にした図書館であってほしい。

第1回「よい図書館とは？」

7/31 30人参加

→参考資料2-1

『人』にかかわる意見

- ・親子で安全で過ごせる子どもの居場所に
- ・学びの拠点に
- ・人と人との交流や創造の場
- ・司書、職員とのコミュニケーションの活性化

『建物』にかかわる意見

- ・駐車場や公共交通も利用できるアクセスのよい場所に
- ・居心地の良さとニーズに応じたゾーニングの設定
- ・外との関わりがある、飲食スペース

『資料』にかかわる意見

- ・選書の多様性があり、本との出あいがある
- ・資料へのアクセスが良い
- ・地域独自の郷土資料の保存と活用
- ・デジタルの活用
(アーカイブ、電子図書…)

第2回「図書館で何をしたいか？」

9/26 22人参加

→参考資料2-2

『子ども』とやりたいこと

- ・一緒に本を選び声を出して読む
- ・絵本をテーマにした工作や遊び
- ・ボードゲーム、将棋…

『個人』でやりたいこと

- ・飲食や休憩もしながらゆっくり過ごす
- ・ワークスペースとして利用する
- ・広い開架で多様な本を眺める
- ・本を活用した発表(手作り、音楽…)

『みんなで』『つながりたい』

- ・本をテーマにした講座やイベント
- ・健康や医療へのアクセス
- ・市民活動の拠点に
- ・本や郷土資料、地域資源についてのボランティアの育成



第3回「郷土資料の使い方は？」

10/6 18人参加

→参考資料2-3

『展示・発信・活用』

- ・鶴岡のPRに活用
- ・子どもたちに伝える工夫を
- ・芸能、食文化などテーマ別紹介で興味をもつきっかけをつくる
- ・もっと市民に情報発信が必用
- ・デジタルアーカイブを進める

『収集・保存』『人・運用』

- ・地元の語り部の録音資料を残す
- ・続けることが大事
- ・ソフトの整備も大事
- ・リタイア世代、高校生、大学生に展示や情報発信に協力してもらう。

『交流・イベント』

- ・みんなで楽しむことが大切。
- ・コミセンごとの地域で歴史・文化に関わる資料を考える



デジタルプラットフォーム・対象別ヒアリング・アンケートから

デジタルプラットフォームから

→参考資料2-5

「よい図書館とは？」

- ・アクセスの容易さ
- ・蔵書を守り、座席数と駐車台数が多い
- ・図書の受取や返却を駅や路線バスで
- ・蔵書を館外でも保管する
- ・若者や子どもたちが集まる賑やかな場所
- ・蔵書の分類に偏りが少ない
- ・コミュニティの中心で新しい出会いや学びのある場所

「図書館で何をしたいか？」

- ・関心をもったテーマで最初に頼りたい
- ・コーヒーを飲みながら本を漁りたい
- ・静かに本を読む
- ・知らなかった本があることに気づく
- ・今の出版の流行を知りたい
- ・新聞社等のデータベースを使いたい
- ・併設された調理室、音楽室、工作室を活用したい

「郷土資料の活用は？」

- ・未来のために資料を分かり易く残しておく
- ・出身の文学者の展示があると観光客の来訪にもつながるのでは
- ・伝統文化の発信と図書館の融合を。鶴岡なら食文化など。

分館の利用者から →参考資料2-4

- ・農業や観光など、地元ビジネス支援を。情報を共有し横のつながりを強める
- ・地域資料（町内会報・学校だより…）の徹底した収集と保存
- ・毎日でなくても夜間開放をしてほしい
- ・自分では買いきれない本を図書館で所蔵してほしい
- ・本になじみのない人でも図書館に足を運ぶ機会をつくりたい

アンケートから

図書館を利用しない人の回答

○利用しない理由

大人

- ・忙しくて利用する時間がない
- ・本を読まない
- ・本は買って読む
- ・図書館に行かなくてもネット等で調べることができるから

子ども

- ・学校の図書室を利用するから
- ・家や学校から遠いから
- ・本を読まない
- ・借りたり返したりが面倒だから

○どのような図書館なら利用したいか

大人

- ・利用しやすい場所にある
- ・条件にかかわらず利用しない
- ・利用したいサービスがある
- ・遅い時間まで開館している

子ども

- ・行きやすいところにある
- ・見たい本がある
- ・行ってみたいイベントがある
- ・行ってみたいと思わない

第1回企画懇話会での主な意見

- ・図書館は大人にも子どもにも居場所になってほしい。
- ・全世代のサードプレイスに。
- ・たくさんの思い出をつくって懐かしく思い出せる場所に。
- ・旅行者も立ち寄れる場所になってほしい

図書館ミーティング等での主な意見

- ・親子で気兼ねなく過ごせる子どもと親の居場所になってほしい
- ・居心地の良さ、過ごしやすさ、自由に過ごせるおおらかさを備えた場所
- ・静かなスペースと話せるスペース、大人と子ども、ニーズに応じた空間がある
- ・多様な活動を支える場所（読書、勉強、読み聞かせ、打合せ、調理、演奏、工作、発表、バザー、上映…）

関連する課題など

- ・多様な居場所づくりから出あいと交流が始まり、利用者や地域に役立つ創造が生まれる仕組みづくり
- ・必要な機能とスペースのバランス

第1回企画懇話会での主な意見

- ・ 図書館には情報や人材が集まる。使う人を育てる、みんなで作り上げる図書館にしてほしい
- ・ 本館と分館、教育機関、地域とのつながりを深めたい
- ・ 教育の多様性を支援する図書館になってほしい
- ・ 読まない人にも本や人にであうしかけをつくってほしい

図書館ミーティング等での主な意見

- ・ 新たな本に出合う、知らないジャンルの本が見つかる、書棚からインスピレーションがわく
- ・ 人と人との新たな出会いがあり、交流と創造の場になる
- ・ 司書、職員とのコミュニケーションを活性化する
- ・ 年齢を問わず読んだ本の感想を集め、大勢の方に知らせ本に興味、関心をもってもらう
- ・ 少しでも子どもたちに読書の楽しさを伝えて、本が一生の伴侶になるようにしたい
- ・ 農業や観光などビジネス支援もできるといい

関連する課題など

- ・ 市役所や地域と連携しながら学びとつながりを生み出す仕掛けづくり
- ・ デジタル活用の検討（図書システム、データベース、AIの活用…）
- ・ 学校図書館（小～高）、大学図書館との新たな連携
- ・ 図書館で活動したい人たちとの新たなつながりづくり

第1回企画懇話会での主な意見

- ・ 地域ごとの特色や行事などを図書館で知ることができると、自分の住んでいる地元の良さに気づける
- ・ 鶴岡を発見して発信する場になってほしい
- ・ 郷土資料館は図書館と密接した鶴岡の学びの基本。そこを大事にした図書館であってほしい

図書館ミーティング等での主な意見

- ・ 初めての人も気軽に参加できるように芸能や食文化など親しみやすい分野で展示や講座を行う
- ・ 子ども向けの展示や企画、自由研究に対応できる資料のPRや子ども向け郷土資料館ツアー
- ・ 高校生、大学生で地域の歴史、文化に関心があるメンバーを募集して定期的に調査する
- ・ 三つの日本遺産（出羽三山、松が岡、加茂）のアーカイブ発信
- ・ いつでもだれでもどこでも資料にアクセスできるようデジタル化

関連する課題など

- ・ 郷土資料を読み解く専門人材の育成と郷土資料に関わるスタッフの充実
- ・ 収蔵場所の確保と収蔵環境の充実
- ・ 資料のデジタル化に向けた予算とスタッフの確保
- ・ デジタルアーカイブの発信に向けた環境の整備